

「皆さんは、「自分は十分ではないのではないか」と感じたことはありませんか？あるいは、「幸せになるには、それにふさわしい何かを成し遂げなければならない」と思ったことはありませんか？「これをうまくやれば、自分は認められるだろう」と、心の中でつぶやいたことはないでしょうか。職場でも、学校でも、スポーツの場でも、私たちは「成果を出さなければ拒まれる」というプレッシャーを感じがちです。それは多くの人にとって共通する体験であり、しばしば私たちの心を不安や落ち着かなさで満たしてしまいます。そんなとき、私の心に深い平安と喜びを与えてくれる思いがあります。それは、「私をありのままで受け入れてくれる方がいる」という確信です。完璧でない私を、変わらず愛してくださる方——それが神です。神の前では、私たちは何かを「やってみせる」必要はありません。努力して愛を勝ち取る必要もありません。神の愛は、ただ無償で与えられるものです。今日の福音（マタイ 6：1－6 & 16－18）と、コリントの教会への手紙Ⅱ 9：6－11においても語られていたように、他者への思いやりは、見せびらかすためでも、人からの称賛を得るためでもなく、それ自体が善いこととして勧められています。私たちは、神の愛を得るために思いやりを示すものではありません。むしろ、すでに神が私たちを愛してくださっているという喜びと確信から、その愛に応えるかたちで思いやりを生きるのです。神は、私たちが何かを成し遂げたから愛しておられるのではなく、ただ私たちを創ってくださったという事実だけで、すでに私たちを深く愛しておられるのです。そして、私たちがより優しく、より徳高く、より思いやりのある人になれるように、神は日々、必要な助けを与えてくださいます。神が私を愛してくださっている。その確信のうちに、私もまた、その愛を他者へと分かち合いたいと願います。どうか私たち一人ひとりが、神の愛に支えられながら、その愛を日々の中で生き、思いやりとして表していくことができますように。」